【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成19年5月17日(2007.5.17)

【公開番号】特開2005-296827(P2005-296827A)
【公開日】平成17年10月27日(2005.10.27)
【年通号数】公開・登録公報2005-042
【出願番号】特願2004-117490(P2004-117490)
【国際特許分類】
Ｂ０５Ｄ　7/24　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　3/30　(2006.01)
Ｃ０３Ｃ　17/32　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０５Ｄ　7/24　３０１Ｔ
Ｂ３２Ｂ　3/30
Ｃ０３Ｃ　17/32　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成19年3月26日(2007.3.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
表面凹凸を有するベース基材に紫外線硬化性の樹脂組成物をコーティングする方法であって、コーティング時は液の温度制御によりレベリング性を向上させた状態で平滑塗工面を形成し、コーティング後は塗工面形状を維持して硬化させる冷却工程を含むコーティング方法。
【請求項２】
コーティング時の前記樹脂組成物の粘度が50cPs以下である請求項１記載のコーティング方法。
【請求項３】
前記冷却処理後の前記樹脂組成物の粘度が3000cPs以上である請求項１または請求項２記載のコーティング方法。
【請求項４】
前記ベース基材として樹脂組成物からなるプラスチックシートもしくは無機充填材と樹脂組成物からなる複合基材を用い、請求項１～３何れか一項記載のコーティング方法によりコーティングされた平滑化シート。
【請求項５】
表面凹凸が最大表面粗さで２００nm以下である請求項４記載の平滑化シート。
【請求項６】
透明である請求項４または請求項５記載の平滑化シート。
【請求項７】
前記ベース基材としてガラスを用い、請求項１～３何れか一項記載のコーティング方法によりコーティングされた平滑化ガラス。
【請求項８】
表面凹凸が最大表面粗さで２００nm以下である請求項７記載の平滑化ガラス。
【請求項９】

透明である請求項７または請求項８記載の平滑化ガラス。
【請求項１０】
前記ベース基材として金属を用い、請求項１～３何れか一項記載のコーティング方法によりコーティングされた平滑化金属板。
【請求項１１】
表面凹凸が最大表面粗さで２００nm以下である請求項１０記載の平滑化金属板。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
すなわち本発明は、
（１）表面凹凸を有するベース基材に紫外線硬化性の樹脂組成物をコーティングする方法であって、コーティング時は液の温度制御によりレベリング性を向上させた状態で平滑塗工面を形成し、コーティング後は塗工面形状を維持して硬化させる冷却工程を含むコーティング方法。
（２）コーティング時の前記樹脂組成物の粘度が50cPs以下である（１）記載のコーティング方法。
（３）前記冷却処理後の前記樹脂組成物の粘度が3000cPs以上である（１）または（２）記載のコーティング方法。
（４）前記ベース基材として樹脂組成物からなるプラスチックシートもしくは無機充填材と樹脂組成物からなる複合基材を用い、（１）～（３）記載のコーティング方法によりコーティングされた平滑化シート。
（５）表面凹凸が最大表面粗さで２００nm以下である（４）記載の平滑化シート。
（６）透明である（４）または（５）記載の平滑化シート。
（７）前記ベース基材としてガラスを用い、（１）～（３）記載のコーティング方法によりコーティングされた平滑化ガラス。
（８）表面凹凸が最大表面粗さで２００nm以下である（７）記載の平滑化ガラス
（９）透明である（７）または（８）記載の平滑化ガラス。
（１０）前記ベース基材として金属板を用い、（１）～（３）記載のコーティング方法によりコーティングされた平滑化金属板。
（１１）表面凹凸が最大表面粗さで２００nm以下である（１０）記載の平滑化金属箔、平滑化金属シートもしくは平滑化金属板。
である。